



応用力学研究室出身、学部卒で東京都庁に入りました樋口と申します。

都庁での勤務経験は26年になります。その間、下水道終末処理場の設計や東京港の波浪・地震観測と解析、埋立護岸の設計、東京臨海地域の都市開発、東京港の水質保全など、主に下水道局と港湾局に従事しています。

現在は伊豆大島にある東京都大島支庁にて港湾課長をしています。大島支庁の管轄は大島をはじめ、利島、新島、式根島、神津島に及びます。私はこれら5つの島において供用されている7つの港湾と10の漁港、3つの空港の建設と管理の現場責任者として日々奮闘しています。

島において、港湾と空港は島民の生活を支える重要なインフラです。生活物資は貨物船によって島内に運ばれます。いつれの島も観光が重要な産業です。多くのお客様が港や空港から島内に来られ、そして帰っていきます。

このため、島の港はいつも静穏で、安全に船舶が接岸できなければなりません。しかし、台風の接近時には5mを超える波がふ頭を襲います。冬期には西風による時化が長引くなど島しょ地域の波浪は大変厳しく、終日欠航の日が続くこともあります。

各港では客船や貨物船が安全に接岸できるよう、防波堤など港湾施設の整備を進めています。高い波と深い水深などから防波堤や岸壁など港湾施設も大規模となります。例えば、縦20m横20m幅20mのケーソン据え付け工事など、自然を相手とする大規模工事の監督を経験できるのも島しょ港湾工事の醍醐味です。

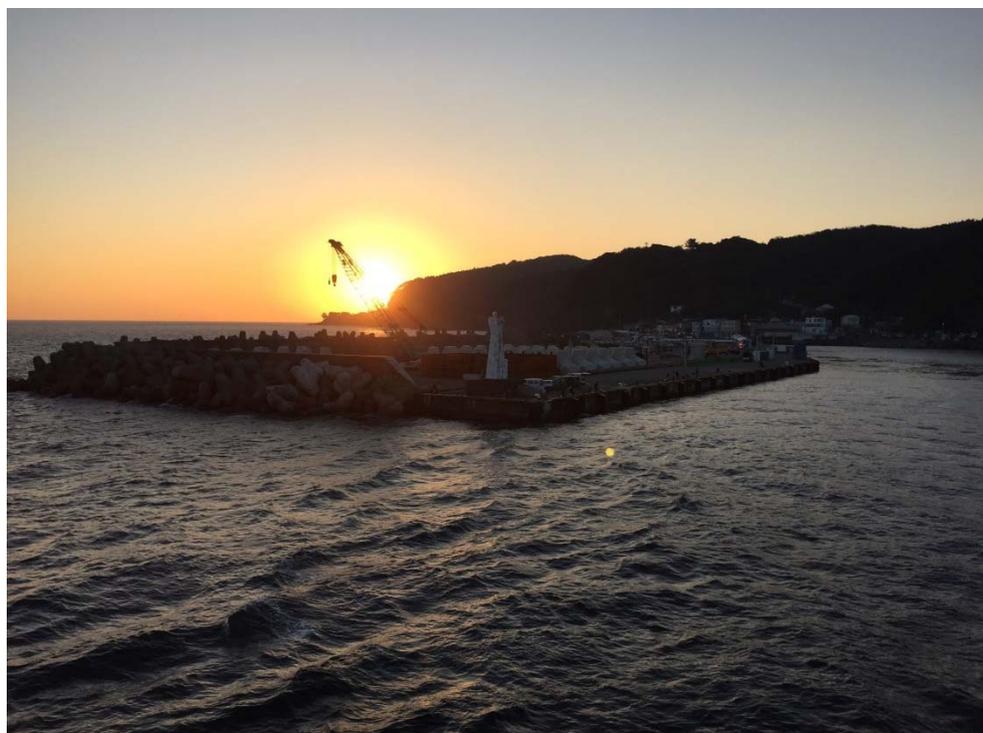
大島、新島、神津島には都営空港が運用されています。それぞれの島には19人乗りのプロペラ機が日に3～4便就航しています。大島空港は1600m、新島・神津島空港は800mの滑走路を有する小規模な空港ですが、侮るなかれ、ハイジャック防止や危険物の持ち込み阻止など、セキュリティ対策は成田空港や羽田空港など国際空港並みのレベルが求められます。私は国土交通省が認定する空港管理の資格を着任早々に取得しました。空港の安全安心のため空港職員を指導し、警察や消防、町・村役場や医療機関と連携した消火救難訓練を企画実施するなど、空港管理の責任者として日々業務を行っています。

現在、支庁舎から歩いて5分程度の職員住宅に住んでおり通勤ラッシュとは無縁の生活を送っています。人気あるダイビングスポットが歩いて行ける距離にあり、夏にはシュノーケリングを気軽に楽しむことができます。さらには町営の温泉が近くにあり、年間パスを購入して自宅の風呂のごとく利用しています。

東京都庁は大都市特有の都市土木ばかりでなく、大自然を相手にする土木技術も経験することができます。このように、東京都庁は幅広いフィールドで活躍できる、大変魅力ある職場です。みなさん、一緒に首都東京を創っていきましょう。



新島港



大島岡田港